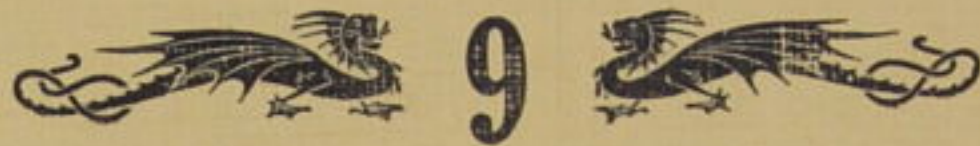


0.8
45
327

研究叢書



東京帝國大學助教授 青木誠四郎 研究
東京女子専門學校講師

裁縫科の好悪とその理由に就て



東京女子専門學校 研究部
渡邊女學校

裁縫科の好悪とその理由に就て

東京女子専門學校 研究部
渡邊女學校

序

兒童ヤ生徒ノ間ニ教科及學科ニ好キト嫌トガアル 好キナモノハ良イ成績ヲ收メルコトガ出來ルガ 嫌イナ學科ノ成績ハ兎角不良ニナリ易イ 故ニ好キ嫌イナク、ドノ科目モ良イ成績ヲ舉ゲサセルコトガ教育者ノ任務ノ一ツデアアル。ソコデ嫌イナ科目ヲ好キニスルニハ 嫌イナ理由ヲ調べテ見ル必要ガアル 本調査ハ即チソレデアアル 此調査ニ依テ見ルト 教員ガ反省セネバナラヌ事項モアリ 家庭デ注意シテ貰ハナケレバナラヌ事項モアリ 又 教材ノ選ビ方ヤ配列ニ工夫ヲシナケレバナラヌコトモハツキリ證據立テラレルノデアアルカラ 此調査ノ結果ニ依テ小學校デモ高等女學校デモ家庭ト教員トノ反省ニヨリ改善スルナラバ嫌イナ學科ガ好キニナリ ヨイ結果ヲ齎スコトニナルト信ズル

本調査ノ材料ハ東京市内ノ 小學校尋常科第四五六學年兒童ノ四百七十九名 同高等小學第一二學年兒童三百六名 同高等女學校第一學年ヨリ第五學年ニ至ル七百十五名ニ就テ本年二月調査シタモノデアアル

昭和十年六月

東京女子專門學校長 渡 邊 滋
渡 邊 女 學 校 長

裁縫科の好悪とその理由に就て

目 次

一、問 題.....(1)

二、調査の方法と条件.....(2)

三、裁縫科の好悪.....(5)

四、好き嫌ひの理由に就て.....(9)

 1. 好む理由

 2. 嫌ふ理由

 3. 裁縫科の成績と好き嫌ひ

 4. 洋裁、和裁、手藝の好悪

 5. 家庭の事情と裁縫科の好悪

五、概 括.....(25)

.....目次終り.....

裁縫科の好悪とその理由に就て

一、問 題

裁縫の教授をよりよくするために、どんな事を考へなくてはならぬか、と、かう考へるとき、そのいろいろな問題となるべきことを、二つに分けて見る事ができる。一つは裁縫の教材がどんな體系と、どんな内容とをもつべきかについての問題であり、一つはこの内容をどう教授すれば、最もよく児童なり生徒なりに學ばせることができるかの問題である。そこで、裁縫科の教授を進歩させやうと希ふならば、これ等の問題について、一つ一つ克明に窺ひ寄つて、これを明かにしつゝ、實際問題の解決に向つて進まなくてはならぬのである。

それならば、この問題の一つ一つとは、どのやうなものがあげられようか。この間に答へることは、さう容易な事ではない。勿論大別しては、上述の二つになると云はれるが、個々のものは種々あり得るので、わたくし達は、まづこの問題としてどんなものを數ふべきかについて、討究を重ねなくてはならぬ實情にあるのである。こゝにこの問題にどんなものがあるか、殊にそのうち児童、青年の心理から見てどんな問題があるかについて、窺ひよる序論となり端緒となるものが、この學科についての児童、青年のもつ好き嫌ひの感じ、と、殊にその好き嫌ひのよつて來る理由に就ての諸問題である。つまり、學科に對する好き嫌ひは、所謂興味と深く結びついて、その學科學習をする際の自發的性質と深く關係してゐるもので、結局は、これが學習の効果を左右する大きい力となるものであることはわたくしが、かつて、研究し

とたところによつても明かなところである(註)。即ち、そこに好き嫌ひの問題が、それ自體としてこの學科の學習に、種々な問題を提供してゐるのを見るのである。が併し、更にこの好き嫌ひのよつて來る理由について詳かにして見ると、そこには、重要な問題が待つてゐることが期待される。つまり前述の學習に於ての自發性について、これを抑へるやうな消極的な條件と、これを促すやうな積極的な條件とが、その中にある筈である。これ等を知る事ができれば、逆に裁縫科の教授を、兒童 青年の自發的な態度の上に進めるには、どのやうな問題について考へればよいのか、自然に知られるわけである。

かやうな理窟によつて、こゝでは、裁縫科教授の實際問題に入つてゆく序論として、その好惡と、好惡の理由とを明かにして、こゝから教授方法の進歩のために考へなくてはならぬ問題に到着して見たいと思ふ。

二、調査の方法とその條件

從來この種の研究調査は、極めて多くが試みられて來た。だか併し、それはたゞ「裁縫は好きか」ときいて、その好惡をたゞし、然る後にこれを機縁としてその理由をたづね、それ等を羅列したと云つた風のものに過ぎない。けれども、好き嫌ひと云ふ事は、比較的のことである。絶對的にこれを判斷することは容易でない。だから種々な學科と照し合せて、これより好きだとか、これより嫌ひだとか云ふ判斷を求めなくてはならぬ。そこで、こゝでは、次に見るやうな用紙を用ひて、次に示すやうな指示を與へて、その品等を求め、然る後に、その中で裁縫の定められた位置に反省して、その理由を求めたのである。そして最後に、その條件となるやうな種々な事項について、指示に示すやうにたづねて、その記入を求めた。

(用紙)

1 (高等女學校) 修身、國語、英語、作文、習字、算學、歴史、地理、理科、裁縫、家事、音樂、圖畫、體操、

(小學校) 修身、讀方、書方、綴方、算術、國史、地理、理科裁縫、唱歌、

圖畫、體操 手工、

最も好きな學科	
やや好きな學科	
好きでも嫌ひでもない學科	
やや嫌ひな學科	
最も嫌ひな學科	

2.

3.

- (1) はい。 いゝえ。 少しします。
 (2) はい。 いゝえ。
 (3)
 (4) 甲、乙、丙、丁、

指 示

兒童に用紙を渡して、何年、と記さしめて次に左の如く指示する。
 あなた方が學校で學んでゐる學科には、そこに書いてあるやうなものがあるのですが、その中には好きなものもありませんが、それ程でないもの、また嫌ひなものもあるでせう。そこで、次の最も好きな學科と云ふ下に、非常に好きな學科を書き入れて下さい。一つ書く毎に傍の學科の名に印をつけて下さい。次にどちらかと云へば好きだと思ふ學科を「やや好きな學科」の下に書き入れなさい。次に非常に嫌ひな學科を「最も嫌ひな學科」の下に書いて下さい。それからどちらかと云ふと嫌ひだと云ふ學科を「やや嫌ひな學科」の下に書いて下さい。そして最後に、残つた學科を「好嫌のない學科」の下に書いて下さい。(書いたものを確かめる)。次に2のところを見て下さい。

いま、あなた方の記した種々な學科のうち、裁縫はどこに入つておますか、わかりますね。さうしたら、「非常に好き」とした人はなぜ非常に好きなのか、「やゝ好き」とした人は、なぜやゝ好きなのか、また、好きでも嫌いでもない人は、なぜ好きでも嫌いでもないのか、それから「やゝきらひ」としてゐる人があるでせう。その人はなぜ少しきらひしなのか、非常に嫌ひな人はなぜ非常に嫌ひなのか、そのわけを箇條書きにして2の所に書いて下さい。

— 時間約十分 —

(3) 最後に、

3のところ——問の答を書いて下さい。

- (1) お母さんは裁縫をなさいますか。
- (2) お家の方の着る着物の多くは家で裁縫なさいますか。
- (3) 洋裁、手藝、和裁といづれが最も好きですか。
- (4) 自分の裁縫の成績を記して下さい。

これ等の指示は、すべて裁縫科擔任の教師以外の教師によつてなされるようにした。それは、児童や生徒の先生に對する特別な感情——あの先生を前においては嫌ひだとは云へないと云つた心持と同時に、あの先生がゐるのだ

第 一 表	學校		A	B	C	計
	學年					
第 一 表	尋 四		62	57	50	169人
	尋 五		52	50	56	158人
	尋 六		56	45	54	155人
	高 一		51	59	54	164人
	高 二		43	44	55	142人
	高女一		46	43	47	141人
	高女二		49	51	50	150人
	高女三		50	44	50	144人
	高女四		49	40	40	133人
	高女五		48	35	50	133人

(調査はすべて、昭和十年二月に行つた)

からと誇張して嫌ひだとする心持など——の影響する事を避けるためであつた。

調査にあつて答へた児童と生徒は、東京市立尋常小學校三校、高等小學校三校 及公立、私立高等女學校三校で各學校各學年一學級づゝであつて、その數は第一表に見るやうで、全數1,94名である。(以下述べる事項に於ける數は必ずしもこれと一致しない。それは不完全なものを除いたからである)

[註]

- 一、青木誠四郎、學科に對する態度と學業成績との關係、児童研究所紀要第十一卷。

三、裁縫科の好惡

好き嫌ひの問題を考へる手はじめとして、まづ、裁縫科が、他の學科に比べて、どの位好かれてゐるか、またどの位嫌はれてゐるかを窺つて見よう。

いま、各學年について、最も好きを一位とし、稍好きを二位とし、好きでも嫌いでもないのを三位におき、更に稍嫌ひ、最も嫌ひを四位、五位において、各學科の各児童によつて、きめられた位置を平均して見ると第二表及第三表のやうになる。

第 二 表 (小學校)

學年	學科	學科													
		修身	讀方	書方	綴方	算術	國史	地理	理科	裁縫	唱歌	圖畫	體操	手工	
4	平均	2.3	1.8	2.2	2.8	1.8				3.4	1.4	3.0	3.0	2.5	2.8
	順位	5	2.5	4	7.5	2.5				11	1	9.5	9.5	6	7.5
5	平均	2.5	2.0	2.2	2.3	2.5	2.4	2.9	3.4	2.2	2.9	3.1	2.5	2.8	
	順位	5.5	1	2.5	12	5.6	4	9.5	13	2.5	9.5	11	5.6	8	
6	平均	2.1	1.8	2.2	3.3	2.8	2.8	3.3	3.3	2.0	2.7	3.3	2.2	2.5	
	順位	3	1	4.5	10.7	8.5	8.5	10.7	10.7	2	7	10.7	4.5	6	
高1	平均	2.3	1.8	2.3	3.6	3.1	2.2	2.9	3.1	2.0	2.2	3.2	2.6	2.0	
	順位	6.5	1	6.5	13	10.5	4.5	9	10.5	2.5	4.5	12	8	2.5	
高2	平均	2.5	1.5	2.2	3.3	3.4	2.5	2.9	3.3	2.1	2.4	3.0	2.6	2.0	
	順位	6.5	1	4	12	13	6.5	9	11	3	5	10	8	2	

第三表 (高等女學校)

學年	學科	修身	國語	英語	作文	習字	數學	歴史	地理	理科	裁縫	家事	音楽	圖畫	體操
1	平均	2.3	2.1	2.6	3.1	2.7	2.3	2.4	2.4	2.8	2.4		2.6	2.7	2.8
	順位	2.5	1	7.5	13	9.5	2.5	4.3	4.3	11.5	4.3		7.5	9.5	11.5
2	平均	3.5	2.9	2.4	3.2	2.9	2.3	2.6	3.1	2.7	2.5		3.2	2.7	2.6
	順位	13	8.5	2	11.5	8.5	1	4.5	10	6.5	3		11.5	6.5	4.5
3	平均	2.8	2.1	2.2	3.6	2.3	2.5	2.5	2.7	3.2	2.7	3.2	2.5	2.6	2.3
	順位	11	1	2	14	3.5	5.3	5.3	9.5	12.5	9.5	12.5	5.3	8	3.5
4	順位	2.9	2.5	2.7	3.5	2.5	3.1	2.3	2.6	3.2	2.5	2.5	2.5	2.5	2.7
	平均	11	2.7	9.5	14	2.2	12	1	8	13	2.2	2.2	2.2	2.2	9.5
5	順位	3.8	2.2	3.1	3.1	2.4	3.0	2.5	2.6	3.5	2.3	2.4	2.5	2.9	3.0
	平均	14	1	11.5	11.5	3.5	9.5	5.5	7	13	2	3.5	5.5	8	9.5

(表中、平均は本文中にあるやうに、最好を1。稍好2。普通3。稍嫌4。最嫌5として、各児童生徒の品等を数として平均としたもの。順位は、この平均の数値によつて好悪の順位を示したもので、同一値の場合は、その順位の平均をもつてした。例へば尋四の讀方、算術は兩者共2.3で2位を占むるのでこの兩方を順位2.5で示してゐる)

これを一般的に各學科に亘つて見ると、勿論學校によつて種々な相異があるのではあるが、とにかく平均的に見て、共通に最も高い位置を與へられてゐるものを見ると、小學校では讀方、高等女學校では國語である。そして一般に科學的な學科は、多少の例外はあるが、低くなつてゐる。いま問題にしてゐる裁縫はと見ると、これは最も高いとは云はれないが、左程低くなつてはゐない。たゞ小學校での好まれる程度を、高等女學校で好まれる程度に比べると、女學校の方が低いのは事實である。併しそれでも、どちらかと云へば好まれてゐるので、とかく一般に云はれてゐる程、この調査によると、裁縫が嫌はれてゐない事が示されてゐると云つてよいのである。

これを裁縫より高く好まれてゐる學科を見ると、次のやうであつて、小學校では知的學科としては國語、技能學科としては手工・書方があげられるに

止るが 高等女學校でも第三學年の結果を特別なものと見るとその數は増す英語數學のやうな始めて學ばれる學科は、低學年で高いが、通じては國語が主で、裁縫より高いものは多くはない。即ち裁縫より好まれる學科を挙げれば 次の如くである。小學校 (括弧内は同等に好まれてゐる學科)

- 四 年 な し
- 五 年 讀 方 (書方)
- 六 年 讀 方
- 高 一 讀 方 (手工)
- 高 二 讀 方、手 工

高等女學校

- 一 年 國語、修身、數學 (歴史、地理)
- 二 年 英語、數學
- 三 年 國語 英語、習字、體操、音楽、歴史、數學、圖畫(地理)
- 四 年 國語、習字、歴史 (家事、音楽、圖畫)
- 五 年 國語

第四表 (高等女學校)

學年	好	惡	最好	稍好	普通	稍嫌	最嫌	計
1	數	42	34	42	42	9	141	
	%	29.7	24.1	29.7	9.9	6.4	100	
2	數	33	39	53	14	11	150	
	%	22.0	26.0	35.4	9.3	7.3	100	
3	數	35	47	36	21	5	144	
	%	24.3	32.5	25.0	14.6	3.5	100	
5	數	28	44	39	23	4	138	
	%	20.3	31.8	28.2	16.7	2.9	100	
5	數	31	43	36	15	3	133	
	%	23.3	36.1	27.1	11.3	2.3	100	

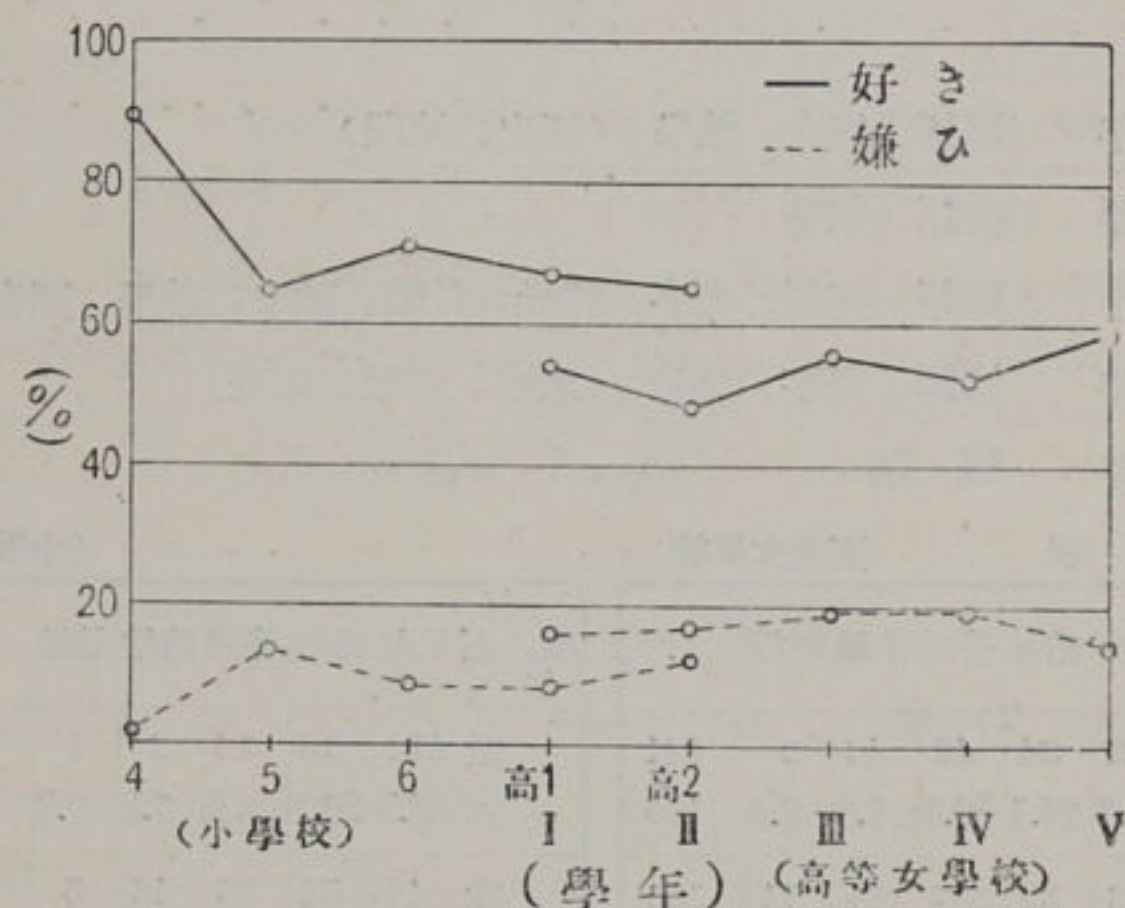
(小學校)

學年	好	惡	最好	稍好	普通	稍嫌	最嫌	計
4	數	116	35	15	2	1	169	
	%	68.3	20.7	8.9	1.2	0.6	100	
5	數	48	54	35	16	5	158	
	%	30.4	34.2	22.1	10.1	3.2	100	
6	數	66	43	28	12	3	155	
	%	42.6	29.6	18.0	7.7	1.9	100	
高數1	數	66	44	41	9	4	164	
	%	40.2	26.8	25.0	5.5	2.4	100	
高數2	數	72	65	32	15	3	142	
	%	50.7	46.0	22.5	10.6	2.1	100	

(表中、數はその好悪を示したものの人員で、%はその學年全人員に対する割合)

この有様を、いま少しく詳しく示すものは、裁縫を好むものと、嫌ふものとの人数の割合である。こゝで各学年の、好き嫌ひの人員を調べて見ると、第四表のやうであつて、その好むものゝ数は尋常小學校では70—80%にのぼり、嫌ひなものは、多くても12—13%に過ぎない。そして高等女學校ではこれがやゝ異つてはゐるが、それでも好んでゐるものは、50%にのぼり、嫌ひなものも、最高20%に過ぎないのである。これが学年による有様を明示するために、曲線を描いて見ると、第一圖のやうである。

第一圖



小學校に於ては尋常四年では、嫌ひなものは殆んどなく、好きなものが90%にもなつてゐるが、五年以上では、大體變化なく、60—70%の好むものと、10%内外の嫌ひなものとを數へてゐる。併し高等女學校では、これより好むもの少く、嫌ふものが多い。しかもこれ等は、大體学年によつて變つてゐない。つまり、これで見ても小學校の兒童では裁縫が好まれる度が高く、高等女學校では低くなつてゐるのである。この、學校によつて好惡の度に差のある

事は、注意すべきことゝ云はれよう。

以上のやうにして、好惡の度から裁縫科を見ると、この學科は年齢に拘りなく、比較的好まれてゐると云つてよい。たゞ高等女學校に於ては、小學校に比べて、好まれる度が明かに少ないと云はねばならぬ實情にある。と云ふことができるのである。

四、好き嫌ひの理由に就て

以上は好き嫌ひの程度について見たのであつて、これは、いはゞ、裁縫科が兒童生徒に對して、どんな關係になつてゐるのか、の外観と云ふべきものである。

こゝで、わたくし達が、むしろ問題としなくてはならないのは、この内容をなしてゐるいろいろな理由である。

そこで、その理由であるが、これを見るには、明瞭にこの學科を好んでゐるものまた明かに嫌つてゐるものが、どんな理由で、さう云つてゐるのかを見るのが最も近道である。そこでまづ最も好きだと云ふものゝあげてゐる理由を見て、次に最も嫌ひやゝ嫌ひとしてゐるもの、(これは數が少いので二つを合せて)理由を調べて見よう。

1 好む理由

裁縫科が最も好きだとするものゝあげてゐる理由を拾ひあげて、これをその類似によつて分類して、その各の学年での數を見ると、第五表のやうになる。

こゝで、いちばん多いのは、作業自體として分けたものである。即ち「工夫することがあるから」「縫ふことが」「ミシンを用ひるから」「落ちつくから」のやうな、裁縫と云ふ仕事そのものゝもつ性質に基づいて好きなものが最も多いのである。

作業自身のもつ性質から好むものに次いで多いのは「出来あがる事が楽しい」とか「着る事が楽しい」とか「着せる事が楽しい」と云ふやうな、結果

第五表 (小學校) (高等女學校)

理由	(小學校)					(高等女學校)					計
	4 人員%	5 人員%	6 人員%	高1 人員%	高2 人員%	1 人員%	2 人員%	3 人員%	4 人員%	5 人員%	
1 漠然たるもの	3 1.8	2 1.3	4 2.6	1 0.6	1 0.7	6 4.2	3 2.2		3 2.2	5 3.7	28 1.9
2 道徳的なもの			2 1.3				1 0.7			2 1.3	5 0.3
3 役に立つ	70 41.5	17 11.2	12 7.7	10 6.1	6 4.2	7 5.0	7 4.7	7 4.9	10 7.2	15 11.2	161 10.8
4 教授者の人格	6 3.6	3 2.0	2 1.3	8 4.9	5 3.5		1 0.7	1 0.7		2 1.5	28 1.9
5 教授法											
6 作業自体	63 37.2	33 20.9	53 34.1	29 17.6	12 8.5	21 14.8	15 10.0	9 6.2	14 10.1	14 10.5	263 17.6
7 結果に關して	37 21.9	12 7.6	23 14.8	37 22.5	16 11.3	12 8.5	19 12.7	20 13.9	21 13.9	23 15.2	220 14.7
8 能力に關して	47 27.8	24 15.2	13 8.9	35 21.4	19 13.4	17 12.1	10 6.7	24 16.7	11 7.9	12 7.7	212 14.1
9 家庭の事情	6 3.6	1 0.6	9 5.8	9 5.5	3 2.1	3 2.1		4 2.8			35 2.3

(表中、人員とあるはその學年の兒童、生徒中、その理由をあげたものゝ人數、%は、その數の全人員に對する百分比)

を楽しんで、そこに好きな原因を求めて見る事のできるものである。

これ等の二つの理由と共に多いのは、能力の自覺に基くとも見られるやうなものである。一般に能力が高ければ好まれることは、常識的によく理解できる事であるが、こゝでもさう云つたものが多い。「細かいことや、手先の事は自分に向いてゐる」とか「早くできるから」とか「容易だから」とか「點がよいから」など、理由をあげてゐるものは、その類である。殊に興味のあるのは、運針の記録をとつてゐる兒童たちが、一齊に「運針が上手になるから」の理由をあげてゐることで、進歩の自覺が興味を刺戟することを如實に示してゐるのである。

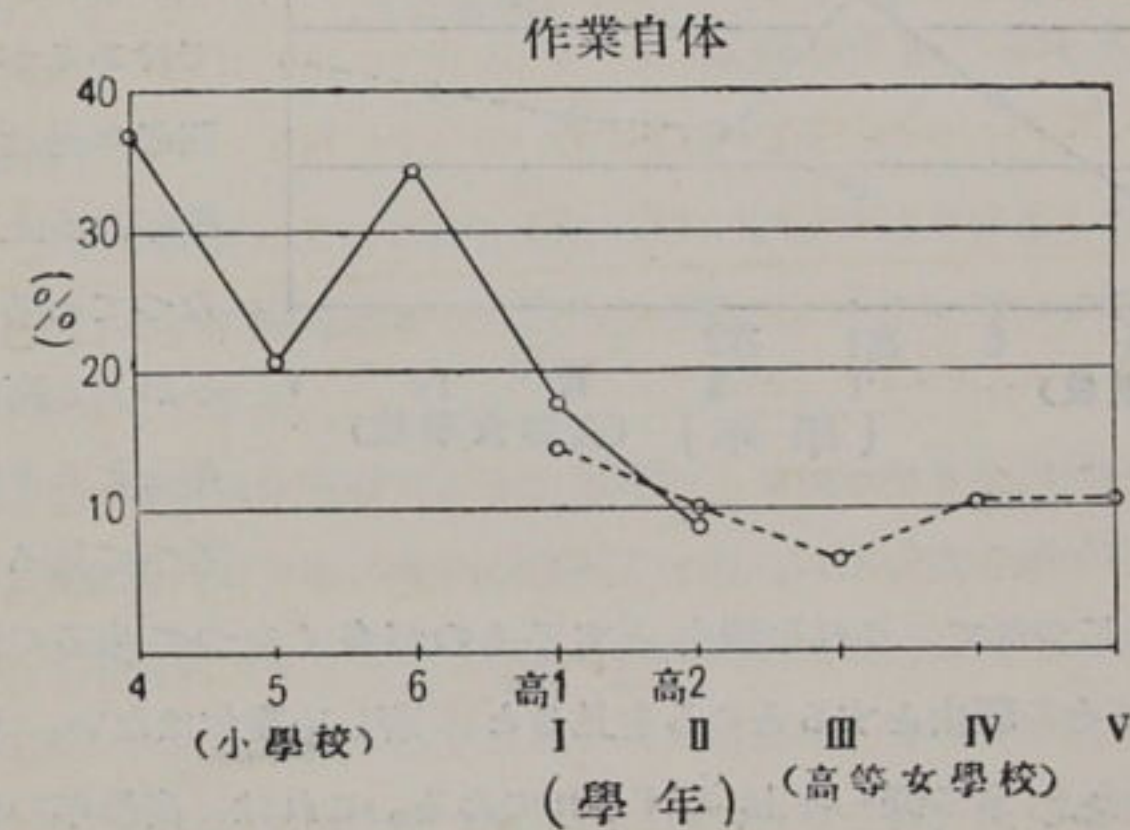
以上三つの理由の外に、稍々多いのは「役にたつから」「女の仕事として大切だから」等の役にたつと云ふ有用性から好きになつてゐるもので、その他少數のものとしては「修養になるから」と云つた風の道徳的なものと「先生が好きだから」のやうな、教師の人格の故の好き さとがあげられる。

これは、兒童生徒の全體としての理由である。前に云つたやうに、好きの度は學年によつて變らないのだから、この理由も變らないかと云ふと、さうではない。表に見るとわかるやうに、よほど學年によつての相異がある。それならば、これはどんな風に變つていつてゐるか。

まづ、いちばん多いのから見てゆかう。

作業自体のもつ性質から來る好ましさは、勿論、全體として多いが、その移りゆきを曲線にして見ると、第二圖のやうで、裁縫科が課せられた最初の

第二圖

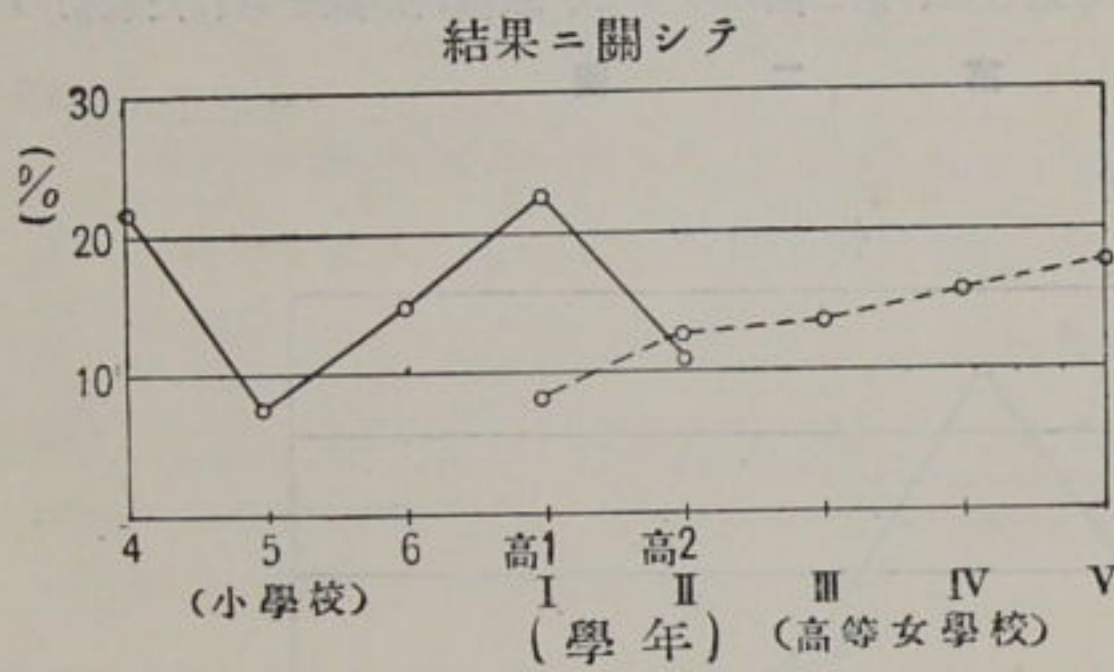


學年たる尋常四學年では、著しく好まれてゐるが、高等科、高等女學校の各學年になるとこれを理由とするものは、著しく減つて來てゐるのがわかる。そして、その理由としてゐるところも、低い學年では「種々なものを縫ふのが面白い」とか「裁縫は飽きない」とか「運針が好きだ」とか云ふやうな極めて單純なものが多いが、高等小學校、高等女學校では「飽きぬ」「面白い」と云ふものゝ外「工夫するから」とか「仕事をしてゐると落ちつくから」など云ふものが著しくなつて來てゐる。だから、低い學年では、眞の意味で縫

ふ、こと自體に興味を有つのであるけれども、高い學年では、それが知的な活動を要求し、情操的效果を有つ點から好まれてゐるので、それだけ作業の經驗からの満足が複雑になつて來てゐると云はなくてはならないのである。

次に結果の上か興味をもち、これを好むものは、第三圖のやうに變つてゆ

第三圖



く。これは、教材の種類との關係が著しいのであるから、その點を考へなくてはならぬのではあるが、尋常四學年とは最初の學年たる上でかうなつてゐるのであるが)と高等一學年とをとり除いて考へて見ると、大

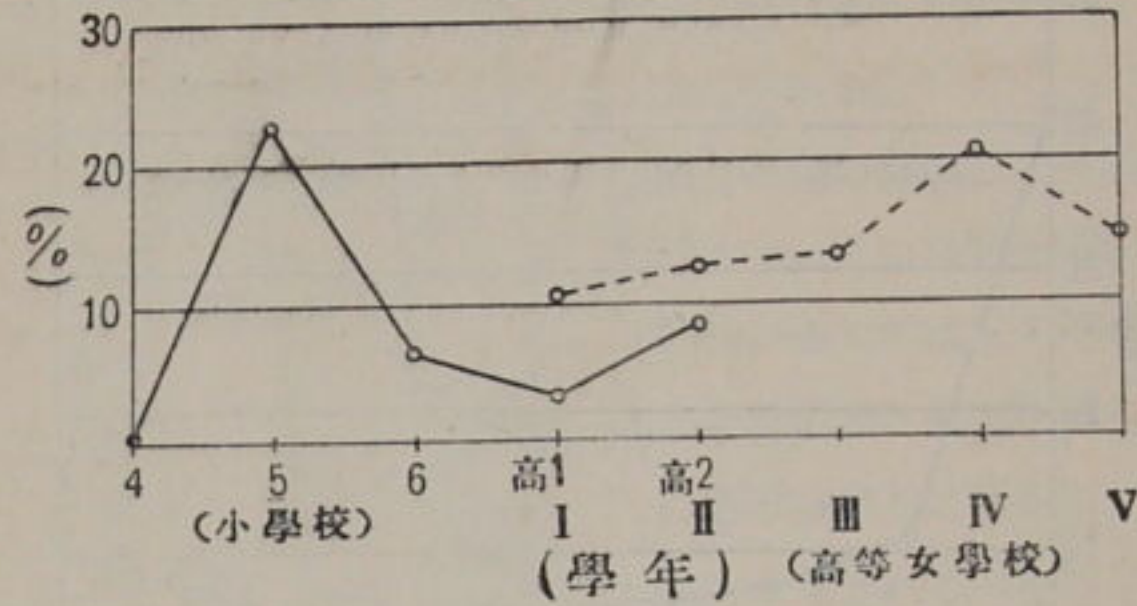
體學年の上につれて、これを理由とするものが多くなつて來るのが知られる。そしてその理由とするところを見ると、著しい變化はない。いつも「着せる楽しみ」「着る楽しみ」があげられてゐる。これは、高學年の教材そのものとの關係に於て理解されるものがあらう。即ち高學年では一般に實用となり得るやうなものが多くなつて來るのが、當然考へられるからである。

これを能力の上の理由から好むとするものは、第四圖のやうに、不規則なところは見られるが、大體に於て學年と共に下降する傾向があると云つてよい。内容の上から見ると、低い學年では、たゞ「點がよいから」と云ふやうなものが非常に多い、尋常四年生の如きは、點のためとするものが13名、28%もあるが高等女學校になるとその數は非常に少く、多くの學年は1人位しかないのである。これに反して「自分の性質に合ふから」とか「細かいことが

性質に合ふから」などと答へてゐるやうなものは、高等女學校に多いのである。いはゞ兒童期には外的な能力の評價によ

第四圖

能力 = 關シテ

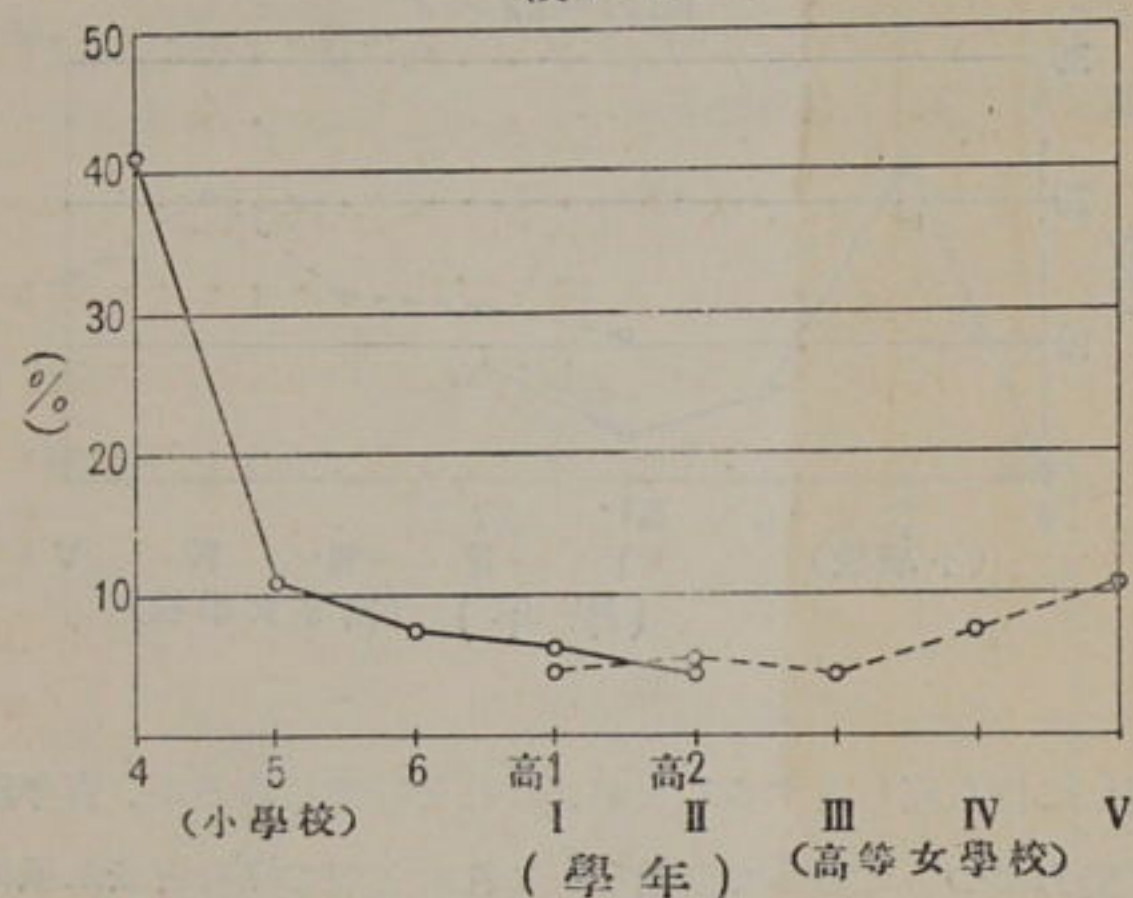


つて、自己を評價して自ら高しとすることが、これを好ましめるが、青年期になると内省的に能力について考へて自覺し、これによつて好むと云ふ風になつて來るのである。

最後に、裁縫科が有用であるから好む、と云ふやうな功利的立場からするものは第五圖のやうに、最初の學年では著しいが、次の學年では急に衰へてそれから漸次衰へるのであるが、それが高等女學校の四年、五年になると上昇して來るのが見られるのである。この事實は、まことに興味あること、云はれよう。即ち尋常四年生で有用とされてゐるのは、たゞ役にたつと云ふ程度の、極めてぼんやりしたものが大部分で(70中42)ある。つまりは教師その他から「大切だぞ」と教へられたのをそのままつかんで答へてゐるものと見られる。それが高等女學校の上級になると、より以上眞實に將來の生活に思ひを寄せて、その有用性を痛感して、これで好んでゐるので、これと低學年のそれと比べると、著しく趣を變へてゐると云はねばならないのである。

以上で、好きだとすることの理由が、どこにあるか、それが學年によつてどう推移するかについての一通りの觀察をした。いまこれを綜括して見ると

第五圖
後にたつ



なり、また上級でこの理由から好んでゐるものも、下級のそれとは、趣が變つて来る。

二、裁縫科が、作業の結果から好まれるものゝ數も、相當に多い。而してこれは教材の關係が大いにあるのではあるが、學年の上につれて、その數を増して来る傾がある。

三、いはゞ、自分の能力についての自信が生れて、上手だから好きだと云ふものは、上の二つの理由をあげるものに次いで多いのであるが、これは學年が上につれて、その數が少くなる。そして、低い學年では、他からの評價を目あてに、自分の能力についての自信をもつが、高い學年では、反省的になり内的になつて、自己評價がその因をなしてゐる。

四 役にたつから好きだとするものも、多いが、これは兒童殊に始めて裁縫を課されたものに極端に多くて、次の學年からは、急激に衰へて来る。そして、高等女學校の上級で再び頭を擡げて来るやうである。

以上のやうに見て来ると、小學校より高等女學校で好まれる度合が少くな

一、裁縫の作業自體の性質に因つて、裁縫科が好きだと云ふものは、全體としての數は甚だ多いのではあるがこれは學年の上につれて、少く

つて来ることは理解できるものがある。すなはち、作業自體についての興味が減じ、能力についての自信が減じ、その上有用性についての意識からの好みが減つて来るのだから、たとへ結果からの興味は加はるものがあつても結局裁縫科の興味は減する傾が見られる事になるのである。

こゝで實際の問題としては、裁縫科は作業自體の興味の減退しないやうにまた能力に自信を與へるやうに、またその有用性についての自覺を培ふやうにしなくてはならないのである。そこに、裁縫教授にあつては工夫考案を必要とするやうな、また實生活と關係するやうな教材を選ぶと共に作業そのものゝ成績が向上する諸々の條件について究めて兒童生徒が「これならばよくできる」と云ふ自覺を與へるやうにするなどの努力がなされるべき事を暗示してゐると云つてよい。

2 嫌ふ理由

以上は好まれる理由であつた。次に、これと反對に「私はなぜ裁縫が嫌ひなのか」についての理由を訊ねて見よう。

この嫌ふわけの中で、最も多いのは、自分の能力についての自信の缺けるところから來てゐるものである。「運針がおそいので」「運針が下手だから」と云つたもの「點が悪いから」と云ふ風のもの、もつと複雑なものとして「自分には手先の事は性質が合はぬ」など云ふものがそれである「下手だから嫌ひなのだ」と云ふことになるのである。これを好きな理由と照し合せて見ると、能力の自覺、進歩の自覺は作業を好きにさせるが、自信の缺乏、進歩の停滞と云ふことは、作業を嫌ひにさせる。つまり「好きこそ物の上手」と云ふこともあるが「上手こそ物の好き」になる原因で「下手こそ嫌ひのもと」になるのである。

嫌ひになる原因として、その次に多いのは、裁縫の作業に關するものである。これには、特にどれと云ふ程、數の多いものはないが、やはり「縫ふことが嫌ひ」「裁つことが嫌ひ」と云ふ風に、前には好きの理由になつたものがそのまま嫌ひの理由になつて來てゐる。これはおそらくは能力に關係したと

ころがあつて、そのために、あるものには好かれるが、あるものには嫌はれると云つた工合になるのではあるが、またあらゆるものゝ好き嫌ひが個人的に定まるときの状態とも云ふべきものでもある。

相當の數に上つて、嫌ひの理由になつてゐるものに、この外に、尙、教授法に關係したものと、教師の人格に對するものとがある。「裁方の説明が少しも解らぬから」とか「宿題を出すのが嫌だから」など云ふものが前のもので「先生がガミガミ叱るから」とか「先生が不親切だから」などゝあげてゐるものが、後のものである。

これを全體として見ると、嫌ひな理由の主なもの、自分の能力についての自信の缺けることゝ、作業そのものに興味をもてないことゝ、教師の人格の好ましくないこと、及び教授の方法から嫌になるものとなるが、たゞ出來上つたものから嫌ひになつたり、役にたゝないなどゝいつて嫌ひになるものはない。これは好むことの理由と對比して見て、十分注意する値のあることゝ思ふ。つまり、作業の性質などについては、好きにも嫌ひにもなるが、

(小學校) 第六表 (高等女學校)

理由	(小學校)					(高等女學校)					計
	4 人員%	5 人員%	6 人員%	高1 人員%	高2 人員%	1 人員%	2 人員%	3 人員%	4 人員%	5 人員%	
1 漠然たるもの			5 3.2	4 2.5	2 1.4	7 4.9	9 6.0	11 7.8	3 2.2	5 3.8	46 3.1
2 教授法		2 1.3	4 2.6		4 2.8	3 2.1	2 1.4	6 4.2	11 7.8	6 4.5	38 2.5
3 教授者の人格	1 0.6	1 0.6	2 1.3	17 10.4	8 5.6		2 1.4	1 0.7	1 0.7		33 2.2
4 作業自體	1 0.6	2 1.3	9 5.8	3 1.8	4 2.8	7 4.9	6 4.0	7 4.9	11 7.8	2 1.5	52 3.5
5 結果に關して		1 0.6				2 1.4	2 1.3				5 0.3
6 能力に關して	1 0.6	36 27.8	10 6.5	5 3.2	12 8.4	25 10.7	20 13.4	19 13.3	29 20.6	19 14.4	176 11.8
7 家庭の事情			1 0.6	4 2.5	1 0.7		1 0.7	2 1.4	2 1.4	1 0.7	12 0.8
8 身體的理由			1 0.6				2 1.4	1 0.7	1 0.7	1 0.7	6 0.4
その他		2 1.3	1 0.6			1 0.7		4 2.8	3 2.2	1 0.7	12 0.8

(表中の數字は、第五表参照)

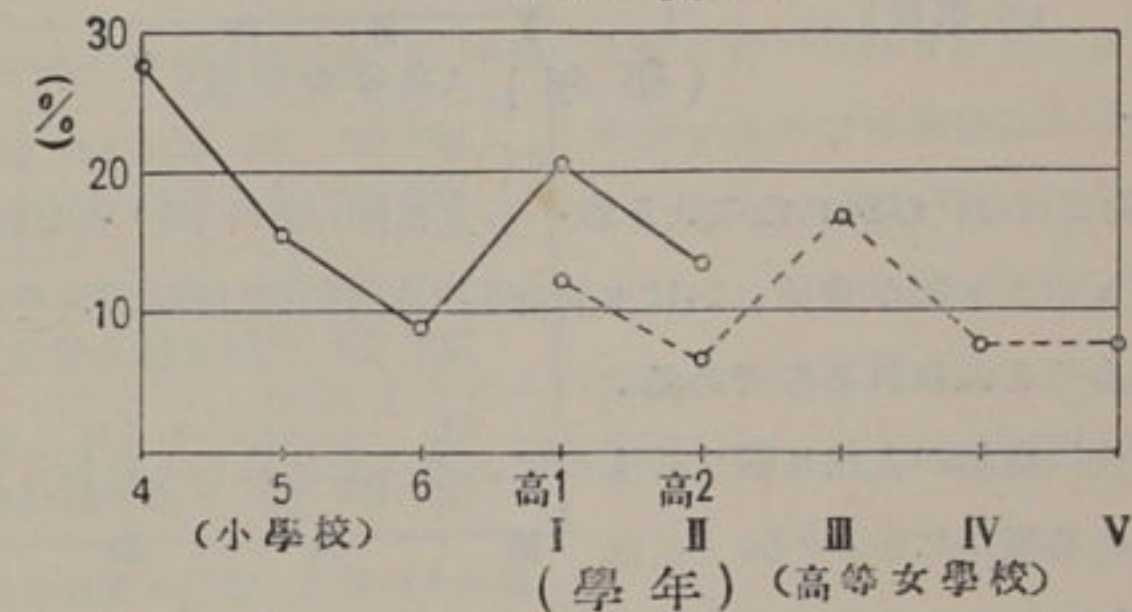
作業の結果については、好きになるとも嫌ひにはならぬ、が教授の方法や、教師の人格などは、それがよくても、好きになる理由になることは少いが、これが悪いと積極的に嫌ひになるのである。

これ等の理由の數を統計して見ると第六表のやうである。

そこで、次に、これ等が學年の移るにつれてどんな風に變つてゆくか、それを見よう。

まづ能力についての自信の缺乏に基づくものゝ移りゆきは、第六圖のやうに尋常五年には例外的に多いのであるが、——これは「難しい」「運針が下手」など云ふも

第六圖 能力ニ關シテ



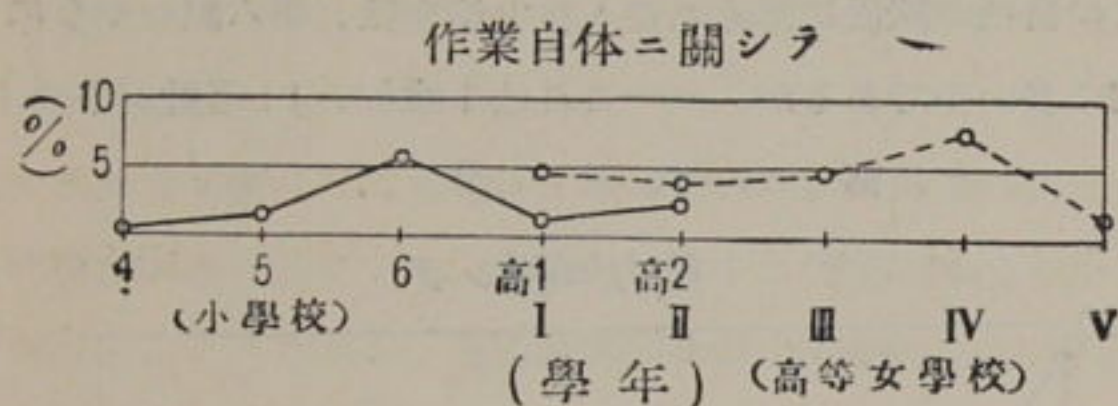
ので最初の學年で全くさう云ふものゝないのに對して、反動的に能力についての自信のなくなつて來

る事を語るものではあるまいか——大體、學年の上るに従つて多くなつて來る趣があり、殊に小學校では單純に「點がわるいから」などが主であるが、女校學の上級では、それの他に「自分は不器用だから」とか「手先の事は不得手だから」などゝ云ふ能力についての自覺が語られてゐる事は、すべての學科についての好き嫌ひが分れて來る事實と照し合せて、興味のあることゝ云はれる。たゞ成績點で自分の能力を卑下して嫌ひになるものが上級でも依然としてあることは、同じ成績點の高い事で、好きになるものが、上級にはない事を考へ合せて見て面白い心理が語られてゐると云はれよう。點がよいからと云つて好きにはなれぬ、だが、點が悪いとどうしても好きになれぬと

云ふのだから。

次に作業の性質そのものについて、嫌ひだと云ふものを見ると、第七圖のやうに少し上級で増すやうである。あるひは、青年期を迎へた少女たちにはこのやうな仕事について、いやだとする心が出て来るものがあるのかも知れない。

第七圖



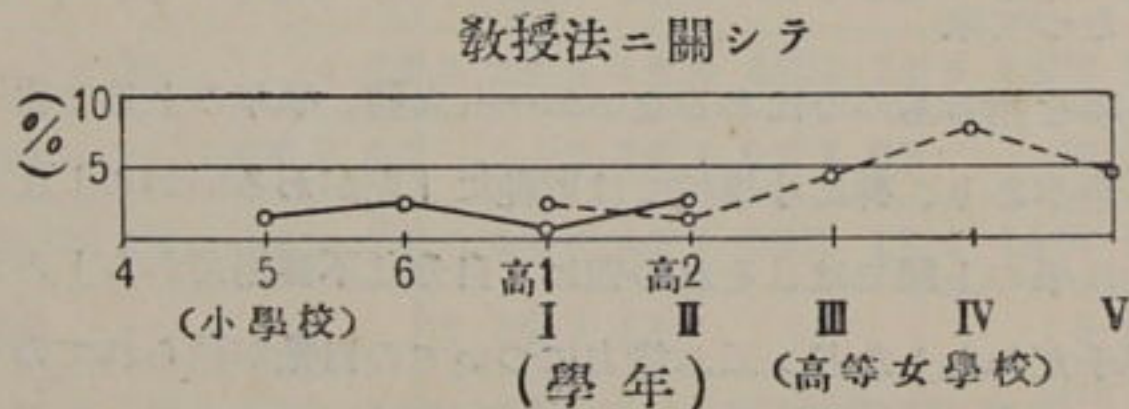
教授の方法について苦情を述べて「だから裁縫はいやだ」と云ふものは、第八圖のやうに明らかに上級に多い。

そこには「わからぬことを教へる」「宿題ばかり出すので、勉強ができないなど」云ふものが多く、いはゞ青年期の批判的な傾向が、そこに頭を擡げて來てゐると云はれるのである。

最後に教師の人格に關するものは、第六表を見るとわかるやうに、はつきりとある學年に

第八圖

限られてゐるので、これが教師の個人的な問題であることが知られる。



このやうにして「裁縫はいやだ」と云ふものゝ理由としては、能力に對する自信の缺乏が多く、また作業についての興味の缺乏が多いのであるが、これ等は教授方法についての不満と共に、大體上級に至る程その數を増してゐる。こゝでも、裁縫教授としては、作業自体に興味を喚び、能力に自信を與へるやうに教材

を選び、作業の方法を考へる必要が示され、それと共に教授方法についての反省の求められねばならぬ事が語られてゐると云つてよい。

3 裁縫科の成績と好き嫌ひ

これまで見て來たところから云ふと、裁縫科の好き嫌ひの定まるのは「上手ならば好き」「下手だから嫌ひ」と云つた能力との關係から來てゐるものが少くない。恰も、こゝに生徒自らの記憶してゐる自分の成績がきかれてゐるので——この評點がそのまま信じてよいかどうかは問題があるが——それとの關係で、好き嫌ひと云ふことを、もう一度考へて見よう。

いま生徒、兒童の記入した裁縫科成績と、好き嫌ひの關係を表にして見ると第七表のやうで、大體成績の

第七表

成績	好悪	最好	稍好	普通	稍嫌	最嫌	計	平均
		實數	實數	實數	實數	實數		
甲	實數	324	224	126	38	18	730	1.9
	%	44.4	30.6	17.2	5.2	2.5	100	
乙	實數	167	226	223	90	31	737	2.4
	%	22.6	30.6	30.4	12.2	4.2	100	
丙	實數	1	3	6	11	1	22	3.4
	%	4.5	13.6	27.3	50	4.5	100	

(表中、實數は各成績の兒童、生徒のその品等をなせるものゝ數、%はその成績のもの全體に對するその品等をなせるものゝ割合)

と第七表のやうで、大體成績のよいものでは好きが多く、成績の悪いものでは嫌ひなものが多い。即ち成績甲のものは、75%までは、好きの部に入り、嫌ひの部に入るものは、8%を超えない。それなのに成績丙のものだと、55%も嫌ひの部に入つてゐるのである。

これ等の事實は、すでに見た「上手こそ物の好き」になる理を證據たてるものであるが、たゞこゝで注意すべきことは、成績がよいのに、嫌ひだとするものゝあることである。少くとも甲の兒童生徒は、教師からは相當の能力を認められてゐるものである。それなのに、何が故に嫌ふのか。そのあげてゐる理由を前の分類に従つて分けると、次のやうである。

理由	嫌ひなものゝ數に對する%	その理由をあげたものゝ全體に對する%
能力の缺乏を理由とするもの	44	78.6
作業の性質が嫌ひだとするもの	18	32.1
その他	38	34.5

教師の人格によるもの	12	21.4	36.4
教授の方法に原因するもの	5	8.9	13.2

こゝでも能力の自覚に基くものが、最も多いのに驚くのであるが、これは客観的な評価に拘らず 自己評価で自分の能力が考へられてゐる事を示すもので、殊に仔細に調べると、この種のもは上級の生徒に多く、高等女學校一年以上のものが、總數44中34を占めてゐる事は青年期に近い時期、また青年期には自分の成績に対する批判が、他の評價をおしのけるやうになつて來ることを示してゐるのである。

このやうに能力に關するものが多いのではあるが、教師の人格に關したるもの、作業自體に關したるもの、この理由をあげたもの全體の數に比べると非常に多い。これは成績はよいが「先生が面白くない」「裁縫の仕事が面白くない」と云ふことを示すものとして注意すべきものである。

かうして、成績の良くて嫌ひなるものでも、さして一般の嫌ひとするところと異つてはゐないが、たゞ先生の嫌ひなためと、仕事が面白くないと云ふものゝ多いこと及び教授法に關するものが少いことが多少の特徴をなしてゐると云つてよい。

では成績がよくなくて、好むものには、どう云ふ特徴があるか、その理由をしらべて見ると、丙のものはすべて作業の性質が面白いことをあげてゐるが、乙のものの理由は次のやうである。

作業の性質によるもの	84	好むものゝ數に對する% 50.4	その理由をあげた全數に對する% 31.9	
役にたつとするもの能力に關係して好むもの	57		34.3	35.4
結果が好きにさせてゐるもの教師の人格が好きにさせてゐるもの	45		26.9	21.3
	55		32.9	25.0
	7		4.2	25.0

さすが自分の能力についての自信から好むものゝ割合はすつと減じてゐて作業自體の性質によるものと、有用だからと云ふ風のものが多くなつてゐる

かうして見ると、成績は悪くても、作業が好ましい、役にたつ、と云ふ意識は裁縫を好ませるが、成績が良くても、自信のない場合、教師が面白くない場合と、作業自體に興味をもてない事とは、これを嫌ひにするものであると云ふことができる。

さきに述べたやうに、成績評點のよいことは裁縫を好きにさせるが、併しそれは下級に於てのことであつた。それはこゝでその半面を證明してゐる。即ち上級では自分の仕事の自己批判ができる。だから實際によくできると自分でも思はなくては點數ばかりからでは好きにはならないのである。

こゝでも、裁縫科が、その教材の選擇に、また作業の指導に、種々な研究の必要なことが知られる。作業に興味をもてるやうに、教材を選擇し、作業のやり口を指導し、そして良い成績を實物の上に見れば、裁縫は興味深くなるだらうし、またそれを通じてその有用性を意識させれば、これに努力する力を得られると云ふべきなのである。

4 洋裁、和裁、手藝の好惡

こゝで教材に於て、洋裁、和裁、手藝のうち、何がいちばん好まれてゐるかを見ることは、教材の選擇の問題に關係して價值あることであらう。

(小學校) 第 八 表 (高等女學校)

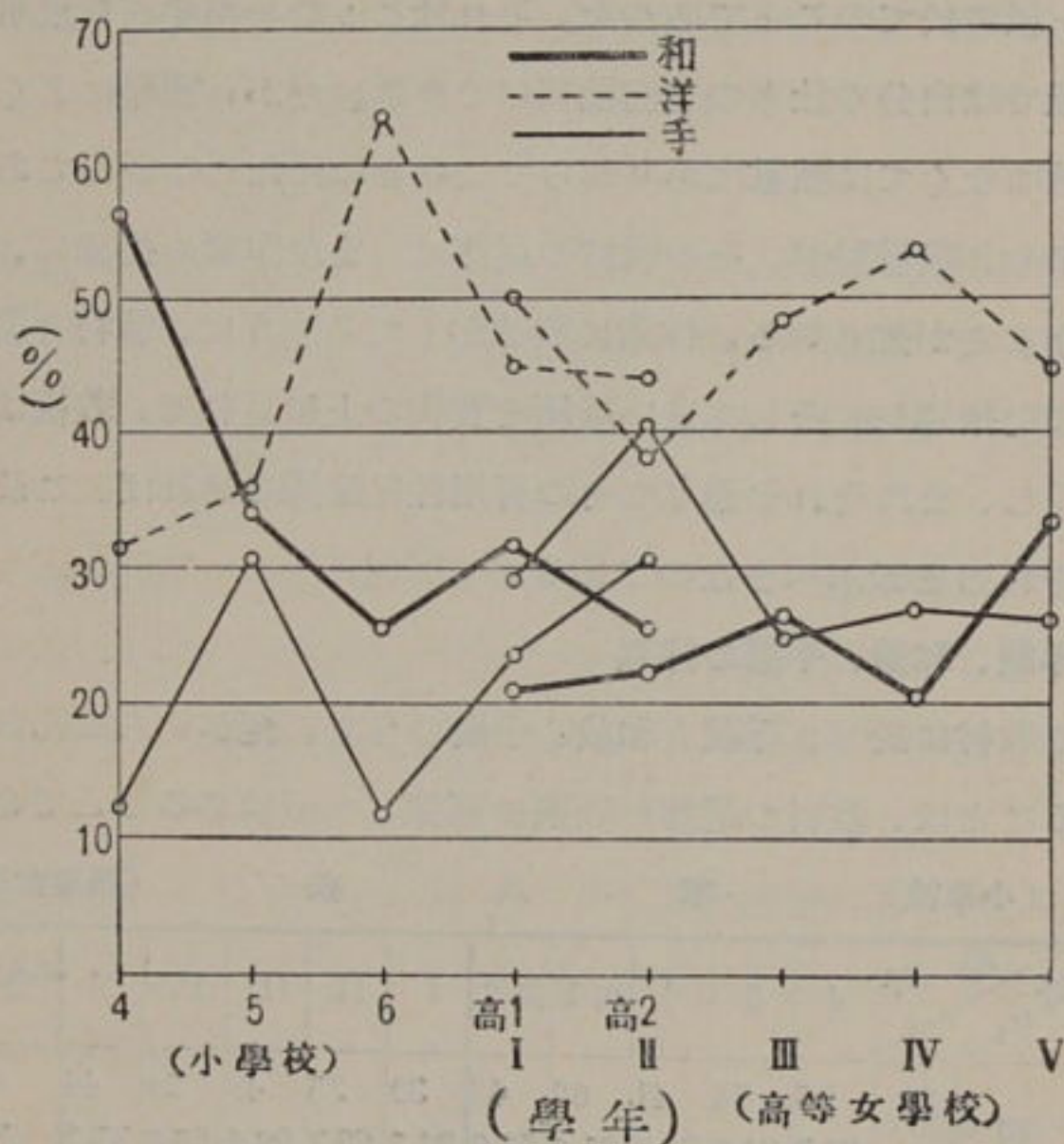
好むもの	學年	第 八 表										
		4	5	6	高1	高2	I	II	III	IV	V	全體
和	數	95	54	41	62	43	30	35	43	29	44	476
	%	56.3	34.0	25.3	31.6	25.9	21.1	22.3	26.4	20.3	33.1	30.0
洋	數	53	56	102	88	73	70	59	79	76	55	71
	%	31.4	35.2	63.0	44.9	44.0	49.7	37.6	48.5	53.2	41.4	44.7
手	數	21	49	19	46	50	41	63	41	38	34	402
	%	12.4	30.8	11.8	23.4	30.1	29.1	40.1	25.1	26.6	25.6	25.3
計		169	159	162	196	166	141	157	163	143	133	1589
		100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

(表中、數は、各學年の、その科目を好むとするものゝ人員で、%は全人員に對する割合)

いま各學年で、何れを好むかを選択した數を見ると、第八表のやうで、全體として洋裁が最も好まれ、和裁これに次ぎ、手藝の好まれる度は少い。

併し、これは學年によつて、變化がある。それは表に見てもわかることであるが、尙明かにするために圖示すると、第九圖のやうになる。

第 九 圖



(此の表の意味は第 八 表の註参照)

即ち和裁は、尋常四年では最も好まれる割合が多いが——尤も、この場合和裁が何であり、洋裁が何であるかと云ふことが、この學年の兒童にどの位理解されてゐるかは疑はしいが——次の學年では、この數が、はるかに減じて來、更に高等女學校になると一層その數を減じて來る。これに反して洋裁は、五年以上の學年では、一頭地をぬいて好まれる度が高い。手藝は小學校では、左程その位置が高くないが高等女學校では、むしろ和裁よりは好まれ

る度が多いと云つてよい程である。

このやうな次第で、この大まかな教材の種類による「好き嫌い」の度は、小學校では大體、洋裁、和裁、手藝 順 高等女學校では、洋裁、手藝 和裁の順と見る事ができる。これが果してどんな理由によるものであるかは、俄かに決する事はできないが、たゞその技藝の内容になる作業がどんなものが多いか、工夫が要るか要らないか、自分でそれがすぐに着られるか否か、また兒童生徒が、西洋風と云ふことにどれだけ好ましさをもつてゐるか、等々のことが、その中に考へられなくてはならぬことは、事實だと云つてよいやうに思ふ。

5 家庭の事情と裁縫科の好惡

これまで見て來たのは、兒童生徒が、裁縫科を好くか、嫌がるかの理由のうちで、自分でさう思つてゐるもの、即ち意識してゐる理由を拾ひあげたものである。だが併し、自分から考へてはゐないが、その好き嫌ひの原因を作つてゐるやうないろいろな事情はないだらうか。

さう考へて、第一に思ひつくのは、裁縫と云ふ仕事を、兒童 生徒が、家庭で毎日見聞してゐるかどうか。またこれが、日常の生活に必要なと云ふこと、密接な關係があると云ふことを見聞してゐるかどうか、さう云ふ角度からこれを眺めて見ることである。そこで、こゝでは、兒童生徒の母親が、自分で裁縫をするかどうか、また家族のものゝ衣服を、家で整へるかどうかについて糺して、その方面から、兒童生徒の裁縫の好ききらひに關係があるかどうかを見ることゝした。

第九表は、母親が裁縫をするか、どうかによつて、裁縫のすき、きらひを區別して見たものである。

これに見ると、家庭で母親が裁縫をしない家の兒童、生徒には、裁縫の嫌ひなものが多く、好きなものが少いことがわかる。それも少しする家のものは、全くしない家から來るものに比して好む程度が高く、少しする家のものより、完全にはいと答へられる兒童 生徒に於て、その好まれる度が高いの

第九表

裁縫するか	好悪		最好	稍好	普通	稍嫌	最嫌	計
	はい	いゝえ						
はい	数		336	285	211	86	32	950
	%		35.5	30.0	22.2	9.1	3.4	100
少し	数		135	139	123	43	14	454
	%		20.7	30.6	30.6	9.5	3.1	100
いゝえ	数		9	20	13	6	3	51
	%		17.6	39.3	25.5	5.9	11.8	100

のものと衣類を家で裁縫するかどうかと云ふ事である。いまその「はい」「いゝえ」に従つて、好悪の人員を分けて見ると第十表のやうで、こゝでもまた、家で家族のものゝ衣類が裁縫されるやうな児童生徒ではその65%が好きの部に入り12%が嫌ひの部

第十表

に入るのに、家でさやうな事のない児童生徒では、好きの部に入るものが56%、嫌ひの部に入るものが16%になつてゐて、やはり一つ

家で裁縫するか	好悪		最好	稍好	普通	稍嫌	最嫌	計
	はい	いゝえ						
はい	数		394	352	248	102	31	1127
	%		35.0	31.2	22.0	9.1	2.8	100
いゝえ	数		92	97	90	34	17	330
	%		27.8	29.4	27.3	10.3	3.2	100

の関係のある事が知られるのである。

おそらく、家のものが裁縫し、また家のものゝきるものを家で整へるやうな家庭では、児童の爲し、生徒の爲す仕事の意味がよくわかり、家人もまた指導する態度になり、それと同時に児童、生徒も周囲のものゝする裁縫に刺戟されて、自らも勵み、そこに自らこれを好むやうになつて來る原因があるのではあるまいか。これは尙、いろいろな方面から研究して見る必要があるが、その關係の存することは、事實として興味ある事である。

である。そこには何等かの關係で、児童、生徒の裁縫學習の態度に家庭の事情からの影響のあることが考へられるのである。

この關係を別の方向から見たものが、家族

五、概 括

以上、この調査で明かになつたところをこゝに、概括して見ると、次のやうになる。

- 一、裁縫科の好き嫌ひについて見ると、児童生徒は裁縫が嫌ひではない。まづ好きなものが多い。但し、小學校の方が、高等女學校に比べて好きな程度が高い。
 - 二、好きな理由としてあげられるものは、裁縫の作業そのものゝもつ面白さ、作りあげられたものについての楽しみ、能力に對する自信、及有用性の自覺が主なもので、嫌ひの理由としては、作業自體の面白くないこと、能力に自信の缺けること、及教師の人格の嫌ひなこと、教授法の缺點等があげられる。
 - 三、これ等のあげられた好き嫌ひの理由は、年齢によつて變化がある。作業の面白さ、能力の自信に基いてこれが好きになつてゐるものは高學年で少くなり、結果の楽しみに基くものは高學年で増す。そして作業の無興味により能力に自信のないことに基き、また教授方法の缺陷を指摘して嫌ふものは、學年の高きに於て増してゐる。たゞ有用性によるものは、その意味は異なるが、はじめに多く、最高學年にやゝ多く、中間學年に少い。そして教師の人格によつて、嫌ひになるのは特にある教師にだけ向けられてゐる。
 - 四、裁縫科に於ける児童の成績の良否は、大體其の好悪と密接な關係がある。そしてまた家庭に於て裁縫がなされるか否かも、好悪と關係するところが少くない。
- 凡そこれ等裁縫科について児童生徒の懐く好悪の感の内容は、これ等児童生徒をして裁縫科に對して自發的に興味をもつて、努力し、以てその學習を進歩させるやうにするにはどのやうな事を考へなくてはならぬかを示唆するものがあると同時に、尙裁縫教授の進歩のために研究すべき問題の所在をも

示すものがあるのである。

まづ裁縫科に興味をもたせるには、いつもその結果が自分の生活に密接に關係して、その出来あがつたものが、生活を樂しませるやうに、またその有用性を自覺する得やうに、また兒童、生徒が自己の能力についての自信を殺がれないやうに工夫さるべきで、それには、教材の内容、配列についての種々な研究が必要となるのである。而して、この教材についての研究の端緒を與へるものとして、兒童、生徒の最も興味をもつ教材が、如何なるものであるかについて調査することは、最も手近い問題として大切なものをもつてゐる。

この問題について、上述の調査の結果から考へられるのは、裁縫作業そのものに興味を有たせるやうに工夫し、また能力に自信のもち得るやうに指導し、勿論教授を了解せしめるやうに考へなくてはならぬと云ふことである。而して、これに關係して問題になるのは、いかなる過程をとつて指導したらよいか、また作業そのものをいかなる條件で營むようにしたら最も興味をもち結果を良好ならしめるか等、主として作業方法及指導法に關するものである。これについては、裁縫用具の研究その他の作業法の研究、また指導過程についての研究がなされなくてはならない。

いまもし、これ等についての調査研究がなされてこれが實際と結びつけられるならば、裁縫の教授は、そこから一つの進歩を劃する事ができるであらうと信ぜられるのである。

研究叢書

東京帝國大學助教授 文學士 青木誠四郎研究
東京女子專門學校講師

(1) 技藝學科の成績と智能との關係に關する研究

定價金三十錢 送料二錢

東京女子專門學校教授 乾 ミチエ研究

(2) 十二單及び袴の色目の研究

定價金三十五錢 送料二錢

東京女子專門學校教授 牛込ちる研究

(3) レースと毛皮との研究

定價金三十五錢 送料二錢

東京女子專門學校教授 小野ミノル研究

(4) 鬘斗目に就いて

定價金二十五錢 送料二錢

東京女子專門學校教授 田窪ミネヨ研究

(5) 衣冠の研究

定價金四十五錢 送料二錢

東京女子專門學校教授 岡本すみ研究

(6) 古代オリエントの服裝のデザインと裁縫

定價金五十錢 送料四錢

東京帝國大學助教授 文學士 青木誠四郎研究
東京女子專門學校講師

(7) 運針に最も適合せる針の長さに関する研究

定價金三十錢 送料二錢

(8) 針供養に就いて

定價金十五錢 送料二錢

東京帝國大學助教授 文學士 青木誠四郎研究
東京女子專門學校講師

(9) 裁縫科の好惡とその理由に就て

定價金三十錢 送料二錢

渡邊女學校出版部

東京市本郷區湯島六丁目

電話小石川(85)八〇五二番・八〇五三番・八〇五四番
振替口座東京一九八二〇番

書 齋 家 符

昭和十年七月五日印刷
昭和十年七月八日發行

定價金 30 錢

著者並
發行者

東京女子專門學校 研究部
渡邊女學校
代表者 渡邊 滋

發行所

東京市本郷區湯島六丁目
渡邊女學校出版部
番替東京一九八二〇番

印刷人

東京市澁橋區西大久保三ノ一〇六
山口 誠 造

K80.8

375.13?

K70.7
A53

昭和4年4月 日

資序 387

K70.8

KE45

9
83.8.12

2001327

100753

K7
KE
9
D
200

正誤
十三頁第四圖ハ
十七頁第六圖ト
入違ヒナリ

裁縫科の好悪とその理由に就て

東京女子専門學校 研究部
渡邊女學校